



野菜の需給・価格動向レポート(平成25年8月20日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		7月の価格情報			8月の価格情報		生育及び価格の8月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		
			中旬	下旬				上旬
葉 茎 菜	<div>キャベツ</div>	74.19	82	92	74.19	70	・入荷見込量：15,180t (98) ・主産地：群馬 (74)、岩手 (17)、北海道 (5)	・群馬産は、高温と少雨の影響を受け生育が停滞しているものの、順調な生育で大玉の比率も増え、今後も順調な生育の見込み。岩手産は、降雨の影響で病害が発生していることとピークを過ぎたことから少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。北海道産は、降雨が多いことから、腐れ等が発生し、少なめの出荷となっている。 ・群馬産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		88.91	91	97	88.91	69		
	<div>ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)</div>	273.33	354	301	273.33	320	・入荷見込数量：4,180t (97) ・主産地：茨城 (42)、青森 (22)、北海道 (7)、秋田 (4)、千葉 (4)、輸入 (4)、埼玉 (3)	・茨城産は、高温と少雨の影響で、細め傾向で少なめの出荷となり、今後は、出荷の終盤を迎え、出荷量が減少する見込み。青森産は、高温の影響で細め傾向であるものの、順調な出荷となり、今後は、9～10月のピークに向けて徐々に出荷量が増加する見込み。 ・茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		487.13	360	361	487.13	337		
	<div>はくさい</div>	58.89	76	97	58.89	87	・入荷見込量：5,400t (95) ・主産地：長野 (88)	・長野産は、高温と少雨の影響で少なめの入荷となっている。今後も少なめの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		62.78	76	98	62.78	88		
	<div>ほうれんそう</div>	583.95	594	637	583.95	530	・入荷見込量：780t (98) ・主産地：栃木 (30)、群馬 (25)、茨城 (13)、岩手 (12)	・栃木産は、7月の日照不足の影響で茎が細めで、少なめの出荷となっている。群馬産は、高温の影響で生育が停滞し、少なめの出荷となっており、月末までは少なめの出荷の見込み。茨城産は、順調な出荷の見込み。岩手産は、梅雨明け後の急激な気温の上昇による生育不良が見られることと、作付面積が減少していることから、少なめの出荷となる見込み。 ・栃木産、群馬産及び岩手産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		670.86	625	630	670.86	551		
	<div>レタス (結球)</div>	120.13	153	126	158.27	123	・入荷見込量：9,290t (95) ・主産地：長野 (85)、群馬 (12)	・長野産及び群馬産は、高温と少雨の影響で、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		125.61	166	129	152.57	128		
	<div>たまねぎ</div>	84.85	81	85	84.85	106	・入荷見込量：8,870t (105) ・主産地：北海道 (39)、兵庫 (23)、佐賀 (21)、輸入 (8)	・北海道産は、出荷開始となったが、7月の少雨の影響で小玉傾向。最近の降雨の影響により収穫作業の遅れ等が懸念される。兵庫産は、生育時の少雨の影響でやや小玉傾向であるものの、前年を上回る出荷となっており、今後は出荷の終盤を迎え、徐々に出荷量が減少する見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		84.85	82	92	84.85	112		
果 菜	<div>きゅうり</div>	210.69	255	275	210.69	209	・入荷見込量：9,110t (98) ・主産地：福島 (43)、岩手 (22)、秋田 (12)、宮城 (5)	・福島産は、ピークを過ぎ、高温と少雨の影響で曲がり等が発生し正品率が減少し少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、曇天続きの影響により少なめの出荷の見込み。秋田産は、高温と豪雨の影響で少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・福島産及び秋田産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		221.71	218	212	221.71	189		
	<div>トマト (大玉)</div>	229.51	306	316	229.51	273	・入荷見込量：10,730t (94) ・主産地：青森 (25)、福島 (16)、北海道 (14)、群馬 (10)、岩手 (10)、秋田 (7)、千葉 (7)	・青森産は、高温の影響で花落ちした段の出荷となり、少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復し、順調な出荷となる見込み。福島産は、順調な出荷となり、月末までは平年並みの出荷となる見込み。北海道産は、生育良好で平年並みの出荷となっているものの、ピークを過ぎ、今後は減少傾向となる見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		271.33	336	304	271.33	291		
	<div>なす</div>	209.55	292	299	209.55	226	・入荷見込量：5,520t (100) ・主産地：栃木 (31)、茨城 (25)、群馬 (24)、埼玉 (9)	・栃木産及び茨城産は、気温の上昇により生育が順調で、平年を上回る出荷となっており、今後も多めの出荷となる見込み。群馬産は、生育が順調で多めの出荷となっているものの、今後はピークを過ぎ、出荷量がやや減少する見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は、平年を下回って推移する見込み。
		221.72	282	248	221.72	207		
	<div>ピーマン</div>	251.5	458	350	263.58	377	・入荷見込量：2,170(100) ・主産地：岩手 (51)、青森 (16)、茨城 (15)、福島 (12)	・岩手産は、7月の低温と少雨の影響で樹勢が弱く、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷となる見込み。青森産及び福島産は、気温上昇により順調な生育となり、出荷のピークを迎え、平年並みの出荷となる見込み。茨城産は、平年並みの出荷となっている。 ・青森産、福島産及び茨城産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		266.65	431	298	282.16	306		
根 菜	<div>だいこん</div>	94.6	74	78	94.6	71	・入荷見込量：9,310t (95) ・主産地：北海道 (69)、青森 (22)、岩手 (6)	・北海道産は、降雨による腐れの発生と生育期の少雨による影響で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。青森産は、高温等の影響で少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復し、出荷量が増加する見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		100.39	76	79	100.39	73		
	<div>にんじん</div>	133.01	109	107	123.08	139	・入荷見込量：6,390t (90) ・主産地：北海道 (82)、青森 (15)、輸入 (2)	・北海道産は、遅れていた産地の出荷も始まったことから、順調な出荷となり、今後は平年並みの出荷となる見込み。青森産は、上旬までの出荷となり、秋ものの出荷は、9月からの開始となる見込み。 ・北海道産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		132.62	108	107	123.11	146		

種類		7月の価格情報			8月の価格情報		生育及び価格の8月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関 東・近畿ブロック 旬別平均販売価 額		
			中旬	下旬				上旬
い  も	さといも 	344	425	367	242.66	358	・千葉産は、少雨の影響により小玉傾向で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。宮崎産は、平年並みの出荷となり、今後も平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		347.9	413	262	220.11	220		
	ばれいしょ 	101.61	145	166	101.61	183		・北海道産は、本格的な出荷開始となり、定植遅れと低温や少雨の影響で小玉傾向で、少なめの出荷となっている。茨城産は、定植期の霜の影響で少なめの出荷となっており、今後はピークを過ぎ、減少傾向となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		101.61	156	194	101.61	202		

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。  
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもは、前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

家計調査によると、6月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,249gで前年比103%、購入金額は、1,897円で同101%となり、購入数量は前年をやや上回り、購入金額は前年並みになった。

また、小売物価統計によると、7月のキャベツの小売価格は、177円で過去5か年平均比119%、レタスは、411円で同134%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5か年平均		平成24年		平成25年			
	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	前年比	購入金額（円）	前年比
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101
7月	4,421	1,691	4,386	1,675		0		0
8月	4,318	1,689	4,245	1,618		0		0
9月	4,839	1,783	4,916	1,703		0		0
10月	5,280	1,840	5,242	1,761		0		0
11月	5,030	1,630	5,039	1,602		0		0
12月	5,140	1,837	5,169	1,888		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都都区部)  
(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成25年	5か年比 (%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比 (%)
1月	187	203	109	579	904	156
2月	203	204	100	555	722	130
3月	207	181	88	512	434	85
4月	248	207	83	466	426	91
5月	175	133	76	369	318	86
6月	140	137	98	338	274	81
7月	149	177	119	308	411	134
8月	138		0	414		0
9月	142		0	526		0
10月	150		0	467		0
11月	155		0	385		0
12月	148		0	495		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5か年平均は、平成20～24年の平均。  
2 平成25年7月の値は、7月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

7月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比70%（中国は同83%、ニュージーランドは同14%）の2万3千トン、にんじんは、同73%（中国は同76%、ニュージーランドは同71%）の8千トン、ねぎは、同117%（中国は同117%）の5千トンとなった。たまねぎ及びにんじんは、前年を大幅に下回り、ねぎは大幅に上回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成23年		平成24年		平成25年1～6月		平成25年6月	
		前年比		前年比		前年同期比		前年同月比
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	437,510	79	58,768	77
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	912,042	97	142,936	89
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	1,349,552	90	201,704	85
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	662,446	89	104,058	89
中国産シェア	52		51		49		52	

資料：ペジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成24年7月(A)	平成25年7月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	32,987	22,952	70
	中国	26,278	21,731	83
	ニュージーランド	3,875	526	14
にんじん	合計	10,390	7,534	73
	中国	9,420	7,174	76
	ニュージーランド	398	284	71
ねぎ	合計	4,416	5,147	117
	中国	4,414	5,145	117

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成25年7月は、速報値。

## 4 トピック ―平成25年上半年の野菜の輸入動向―

平成25年上半年の野菜全体の輸入数量は、前年同期比90%の135万トンとなり、4年ぶりの減少となった。

類別に見ると、生鮮野菜は同79%と大幅に減少したものの、冷凍野菜は同96%で若干の減少に止まり、トマト加工品は同104%とやや増加している。

類別に輸入単価と輸入数量を前年と比較してみると、

① 生鮮野菜は、バラつきはあるものの、輸入単価が上昇して、輸入数量が減少している品目が多い。これは、昨年末以降の円安が、輸入単価の上昇要因になっている中で、そもそも生鮮野菜の輸入が、国内生産の状況等に左右されるところ、この時期の国産野菜の価格が安値傾向で推移していたこと等によるものと思われる。なお、トマトや結球レタスは、輸入単価が上昇しているにもかかわらず、輸入数量も増加しているが、これは、ゼリー部分が少ないトマトや冬場のレタスの業務用需要が堅調であり、国産では時期的なものを含めて十分対応できていないことによるものと思われる。

② 一方、冷凍野菜やトマト加工品は、生鮮野菜に比べ、輸入単価の上昇の程度が低く、かつ、一定の範囲に収まっており、輸入数量もそれほど変動していない。これは、円安により輸入単価が上昇したものの、食生活の洋風化や簡便化志向により、輸入の冷凍野菜やトマト加工品に一定の需要があることの表れと思われる。特に、トマト加工品は、年間の輸入数量が決められている「トマトビューレ等関割」を除き、増加が目立つが、トマトが健康に良いとの研究成果等を受けてトマトジュース等の需要が好調なことが影響していると思われる。ばれいしょの輸入数量は、外食産業での在庫調整の影響で、大きく減少している。

今後も円安の状況が続くとしても、生鮮野菜の輸入は、国内生産の状況等によって大きく左右されることから、需要動向を十分に踏まえつつ、安定的に生産できる体制を確立することが重要である。特に、輸入量の多いたまねぎについては、中国産が豊作で、輸入単価が急落してきており、今後の国内生産の状況が注視される。また、冷凍野菜等については、需要が堅調であり、今後、品質の良いものを製造する国内の産地を育成することが課題となっている。

### 輸入の単価と数量の年別推移(上半期)

(千トン) (円/kg)

年次	生鮮野菜 (千トン)	冷凍野菜 (千トン)	トマト加工品 (千トン)	その他の類別 (千トン)	単価 (円/kg)
平成20年	349	390	115	335	125
平成21年	330	381	92	296	120
平成22年	413	411	104	308	125
平成23年	511	450	123	320	120
平成24年	556	462	141	336	115
平成25年	438	443	147	323	110

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」

### 生鮮たまねぎの輸入の数量と単価

(千トン) (円/kg)

月次	平成24年数量 (千トン)	平成25年数量 (千トン)	平成24年単価 (円/kg)	平成25年単価 (円/kg)
1月	29	20	14	14
2月	30	18	15	15
3月	35	22	16	16
4月	31	21	18	18
5月	27	18	17	17
6月	34	24	15	15
7月	34	23	22	22
8月	26	23	23	23
9月	24	23	23	23
10月	24	23	23	23
11月	23	23	23	23
12月	22	23	26	26

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」、農林水産省「植物防疫統計」

注：平成25年7月の輸入数量は植物防疫統計の検査数量を用いている。それ以外は貿易統計の数字による。

### 輸入の単価と数量の前年比(上半期)

◇生鮮野菜

数量(%) 単価(%)

拡大

### 輸入の単価と数量の前年比(上半期)

●冷凍野菜 ●トマト加工品

数量(%) 単価(%)

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。